第一回留学体験記（ドイツ・トリーア大学）

E244146 古志茉莉名

○出国から授業開始まで

私は、2026 年 9 月 28 日に日本を出国し、ポーランド経由で翌 29 日にルクセンブルクに到着しました。ルクセンブルクからドイツのトリーアまでは直通のバスがあるため、アプリでバスチケット（3 €）を購入し、トリーアへ向かいました。到着後はポルタ・ニグラやトリーア・大聖堂などの名所を訪れました。街並みや建物がどれも美しく、歩いているだけで心地良さを感じました。29 日はポルタ・ニグラ近くのホテルに宿泊しました。

翌 30 日にトリーア大学の寮に入寮しました。この日は、トリーア大学日本学科の方がホテルから寮まで車で送迎してくださいました。入寮手続きや学生証の受け取り、寮で必要な物品の買い出しまでサポートしていただき、とても心強かったです。

10 月 1 日から 10 日まではオリエンテーション期間でした。トリーア大学での生活や国際交流に関する説明を受け、住民登録や履修登録などの手続きを行いました。また、留学生交流会にも参加し、海外の友人を増やすことができました。9 日にはドイツ語コースのクラス分けテスト（placement test）があり、私は A1.2 の授業を履修するため、授業条件となる A1.1 のテストを受験しました。休日には大学主催のトリーアツアーやハイキングに参加したり寮周辺を散策したりして、町の魅力を感じることができました。



写真 1.Mariensäule から見たトリーアの景色



写真 2.寮の近くにあるブドウ畑

○ドイツでの授業について

私は教育科学部に所属していますが、今学期はドイツ語コースのみ履修しています。ドイツ語 A1.2 の授業では、担当教員は英語とドイツ語を使用して授業を進めており、発表や受講生同士で会話する機会も多く設けられています。学生同士のコミュニケーションは基本的にドイツ語を使用します。

スピーキングの授業では、基本的な自己紹介の方法や、ドイツ語特有の発音を学び、受講生同士で自己紹介をしたり、発音を練習したりしています。この授業はドイツ語 A1、A2 レベルの学生が合同で受講しており、他の受講生の間違いを笑わないというルールがあるため、失敗を恐れず発言できる環境が整っています。

○コミュニケーションの機会

●Tandem 制度

ドイツには、異なる言語を母語とする人同士が互いに言語を教え合う「Tandem 制度」があります。私は、10 月からドイツ出身の方とバディを組み、週に 1 回交流しています。ドイツ語の表現やドイツの文化、おすすめの場所を教えてもらう一方、私は日本語の単語や日本の行事について伝えました。また、トリーア大学日本学科主催の日本人とドイツ人の Tandem 交流会にも参加し、5、6 人のグループで互いのことや興味のある話題についてドイツ語と日本語を交えて会話しました。

●インターナショナルカフェ

トリーア大学のインターナショナルセンターでは、毎週水曜日にインターナショナルカフェが開催されています。大学に在籍する学生などが自由に参加でき、コーヒーやお菓子を楽しみながら主に英語で様々な国の人と交流します。他国の文化などについて知るとともに、英語を使用する機会を増やせるため毎週参加しています。

○まとめ

一か月目は住民登録や銀行口座開設、保険・携帯電話契約手続きなど様々な手続きに苦労しましたが、国際課や日本語学科の方々、他の交換留学生のサポートを受けながら生活することができました。トリーアでは、様々な国の人とドイツ語以上に英語でコミュニケーションを取る機会が多くあります。私はこれまで英語に苦手意識がありましたが、英語での会話が必要とされる環境で生活する中で、会話への不安を感じながらも、自分の伝えたいことが伝わる喜びや英語で交流する楽しさを感じるようになりました。残り 9 か月もドイツ語の授業や Tandem 制度、インターナショナルカフェへの参加に加え、日常的な交流も大切にし、ドイツ語と英語の能力を高めていきたいです。



写真 3.市立図書館の漫画コーナー
（※全てドイツ語に訳されています）



写真 4.アジア食材スーパー



写真 5.スーパーで買ったパン



写真 6.Heiße Schokolade と Käsekuchen